

HiKOKI

取扱説明書

用途

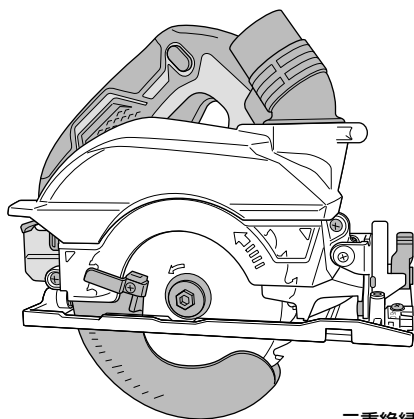
各種材料の切断

- 木材
- 窯業系サイディング
- 石こうボード

深切り電子集じん丸のこ

125 mm C 5YE

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



二重絶縁



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに

電動工具の安全上のご注意……………	1
二重絶縁について……………	5
本製品の使用上のご注意……………	5
各部の名称……………	8
仕様……………	9
標準付属品……………	10
別売部品……………	11

使い方

ご使用前の準備……………	12
のこ刃の取付け……………	13
ご使用前の点検……………	15
各種調整方法について……………	17
基本機能について……………	19
コレクトカバー、ダストボックスの 使い方……………	23
キックバックについて……………	25
キックバック軽減システムについて……………	26
直角に切断する……………	27
傾斜切断する……………	29
のこ刃の交換……………	31
切りくずの捨て方 (ダストボックス使用時)……………	33
インナーカバー内側部の掃除……………	34
別売部品の取付け方……………	35

その他

保守・点検……………	36
故障診断……………	38
ご修理のときは……………	裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

⚠警告

感電、火災、重傷を招く事故を未然に防ぐため、ご使用前にこの「取扱説明書」を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。

なお、文中の「電動工具」とは、電源式(コード付き)電動工具を示します。

作業場の安全性

- ① 作業場は整理整頓して、十分な照明を確保してください。
散らかった暗い場所や作業台は、事故を招く恐れがあります。
- ② 爆発を誘引することがある可燃性の液体やガス、または粉じんがある所で電動工具を使用しないでください。
電動工具から発生する火花が発火の原因になります。
- ③ 電動工具の使用中は、子供や第三者を近づけないでください。
注意が散漫になり、操作に集中できなくなる場合があります。

電気に関わる安全性

- ① 電動工具の電源プラグに合ったコンセントを使用してください。電源プラグを改造しないでください。また、アダプタプラグをアース(接地)された電動工具と一緒に使用しないでください。
改造していない電源プラグおよび、それに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。
- ② 電動工具の使用中は、金属製のパイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などアース(接地)されている物に体を接触させないようにしてください。
体が触れた場合、感電のリスクを増大させます。

⚠ 警告

屋外で使用する際には、③～⑤の注意が必要です。

- ③ **電動工具は、雨または湿気がある状態にさらさないでください。**
電動工具に水が入ると、感電のリスクが増大します。
- ④ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - 電動工具を移動させたり、引いたり、または電源プラグを抜くためにコードを利用しないでください。
 - コードは、熱、油、角のところがたつ所、または動く物からはなしておいてください。コードが損傷したり、絡まったりすると、感電のリスクが増大します。
- ⑤ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**
屋外使用に適したコードを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。

人への安全性

- ① **電動工具の使用中は、油断をせず、常識を働かせ、いま自分が何をしているかに注意して作業してください。**
疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいるときは使用しないでください。一瞬の不注意で、深刻な傷害を招く場合があります。
- ② **安全保護具を使用してください。**
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
 - 滑り防止安全靴やヘルメット、耳栓やイヤマフなどの安全保護具を使用することで、傷害のリスクが軽減されます。
- ③ **不意な始動を避けるため、電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。**
スイッチに指を掛けて運んだり、スイッチが入っている電動工具の電源プラグをさし込むと、不意に始動し事故を招く恐れがあります。
- ④ **電動工具の電源を入れる前に、調整キーまたはレンチをはずしてください。**
工具の回転部分にレンチまたはキーを付けたままにしておくと、傷害を招く恐れがあります。
- ⑤ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
常に適切な足場とバランスを維持することで、予期しない状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服や装飾品は着用しないでください。
 - 髪や衣服、および手袋を回転部に近づけないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ **集じん装置が接続できる物は、適切に使用してください。**
粉じんによる人体への悪影響を軽減することができます。

警告

電動工具の使用および手入れ

- ① 無理に使用せず、用途に合った電動工具を使用してください。
用途に合った電動工具を使うことでより良く、安全な作業が行えます。
- ② スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は事故を招く恐れがあるので、使用せず修理を依頼してください。
- ③ 誤作動防止のため、次の作業前は電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 準備や調整・修理。
 - 付属品や別売部品の交換。
 - 保守・点検や保管。
 - その他、危険が予想される場合。このような安全対策によって電動工具を誤って始動させるリスクが軽減されます。
- ④ 使用しない電動工具は、子供の手の届かない所に保管し、電動工具に不慣れな者や取扱説明書を読んでいない者には電動工具を使用させないでください。
電動工具を扱い慣れていない者に渡すと事故の原因となります。
- ⑤ 電動工具の保守・点検を適切に行ってください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 異常がある場合は、使用する前に電動工具の修理を行ってください。電動工具の保守が不十分であることが、事故の原因となります。
- ⑥ 先端工具は、鋭利かつ清潔に保ってください。
先端工具を適切に手入れし、先端を鋭利に整えておくことで、作業を円滑にし操作が容易になります。
- ⑦ 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件や、実際の作業を考慮し、取扱説明書に従って適切に使用してください。
取扱説明書に書かれていない使用方法で作業すると、傷害を招く恐れがあります。
- ⑧ 電動工具は異常な高温、または低温の場所で使用すると能力を十分発揮できません。

整備

- ① 電動工具の修理は、修理専門要員が純正交換部品だけを用いて行ってください。
これにより電動工具の安全性を維持することができます。

その他の項目

- ① 取扱説明書はお読みになった後も、使用する方がいつでも見られる所に大切に保管し、利用してください。
他の人に電動工具を貸し出す際は、取扱説明書も一緒にお渡しください。

警告

② 加工する物をしっかりと固定してください。

加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

③ 作業前に確認してください。

- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- 巻き込まれる恐れのある手袋はしないでください。
- 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- 保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
- コードや延長コードは事前に点検し、損傷している場合には修理・交換してください。
- 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

④ 電動工具は取扱説明書に従い、正しく使用してください。

- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
- 電動工具は指定された用途以外に使用しないでください。

⑤ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外の物を使用しないでください。

⑥ メンテナンスをきちんと行ってください。

- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 損傷した電動工具や、付属品の修理や部品交換は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故の原因になります。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

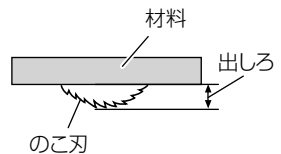
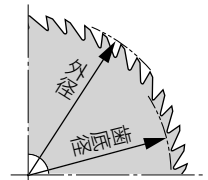
お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に **回** マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、まちがって組み立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、深切り電子集じん丸のこについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

- ① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② **直流電源、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。**
製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。
- ③ **保護カバーを固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。**
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。
- ④ **のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が80 mm以下ののこ刃は使用しないでください。**
保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。
- ⑤ **切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃が挟み付けられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。**
- ⑥ **切断する材料は、安定性の良い台に置いてください。**
- ⑦ **材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性の良い台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。**



⚠ 警告

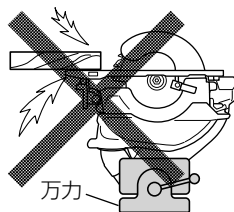
- ⑧ 使用中は、機体を確実に保持してください。
- ⑨ 使用中は、のこ刃や回転部、切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。
- ⑩ 切断途中で、のこ刃を回転させたまま機体を戻さないでください。
スイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。
回転させたまま機体を戻したり、持ち上げたりすると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑪ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑫ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
- ⑬ 雨または湿気がある状態にさらさないでください。
雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。故障や感電、発煙の恐れがあります。

○ 騒音防止規制について

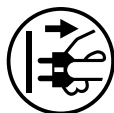
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

⚠️ 注意

- ① 刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。
強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に載せたまま作業しないでください。
手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。
- ⑨ 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。
感電の恐れがあります。
- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
不意の接触などで、けがの原因になります。
- ⑪ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑬ LEDライトをのぞき込んで、直接LEDライトの光を目に当てないでください。
- ⑭ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。
- ⑮ 機体を作業台や床に置くときは、のこ刃の回転が完全に停止して、保護カバーで、のこ刃がおおわれていることを確認してください。
機体が自走して、けがの原因になります。



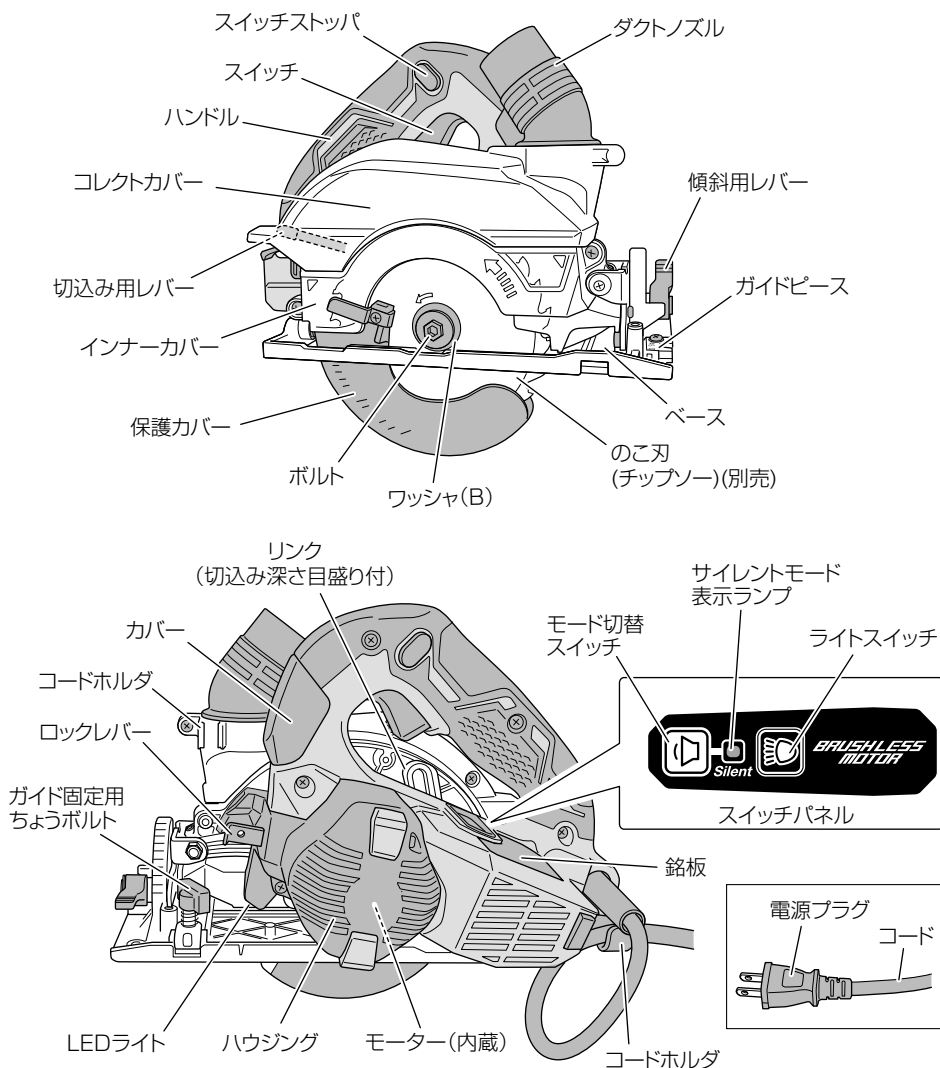
⚠ 警告マークについて



このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

電源プラグをコンセントにさしたまま準備や点検、先端工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

各部の名称

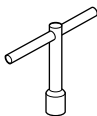


仕 様

形 名	C5YE
使 用 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
最大切込み深さ	47 mm (90°) / 30 mm (45°)
使用できるのこ刃	外径 100 ~ 125 mm × 穴径 20 mm
無 負 荷 回 転 数	7,000 min ⁻¹ {回/分}(パワーモード時) 3,500 min ⁻¹ {回/分}(サイレントモード時)
全 負 荷 電 流	12 A
消 費 電 力	1,050 W
モ ー タ ー	ブラシレス
寸 法 全長 × 高さ × 全幅	255 × 230 × 174 mm
質 量	2.4 kg (のこ刃・コード除く)
コ ー ド	2心キャブタイヤケーブル 0.5 m
L E D ラ イ ト	白色 LED
サイレントモード表示ランプ	青色 LED

標準付属品

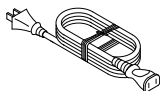
ボックススパナ



ガイド



継ぎコード (5 m)

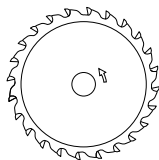


別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

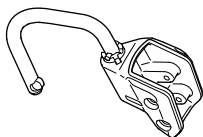
各種のこ刃

各種取りそろえております。
用途に応じてお選びください。



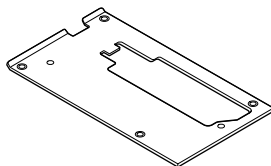
フック

単管(φ48)や木材などにつり下げるときに便利です。
(P.35「フック」参照)



フッ素プレート

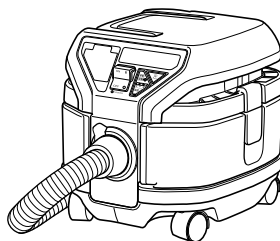
材料との摩擦が少なく、なめらかな切断を可能にします。
(P.35「フッ素プレート」参照)



集じん機

本製品は、集じん機に接続して使用することができます。

なお、ホースの取付け方はP.24「集じん機(別売部品)との接続」を参照してください。

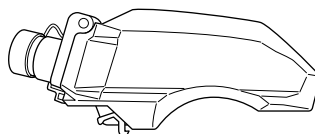


(集じん機 RP 80YD)

ご使用になる集じん機に応じて、ゴムアダプタ、またはジョイントをお買い求めください。

ダストボックス

使い方はP.23、24、33を参照してください。



のこ刃の取付け



この作業時は必ずスイッチを切り、プラグを抜いてください。

本製品は、のこ刃が標準付属されておりません。

別途 P.9「仕様・使用できるのこ刃」の条件を満たすのこ刃をお買い求めください。

注 切断トイシは使用できません。

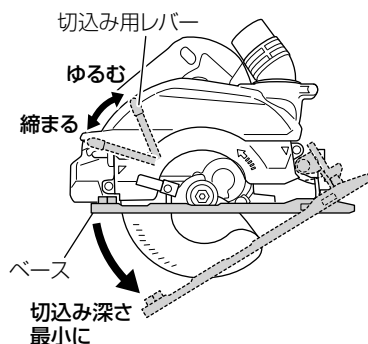
警告

- のこ刃の取付けは、安定した台や床の上で行ってください。
- ボルトの締付けは、付属のボックススパナで作業してください。付属以外の工具を使用すると、締めすぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

1

切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを最小にする

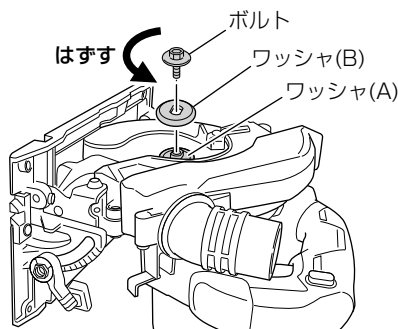
切込み用レバーをゆるめ、ベースを動かし、切込み深さを最小にします。切込み用レバーを締付けて、ベースを固定します。



2

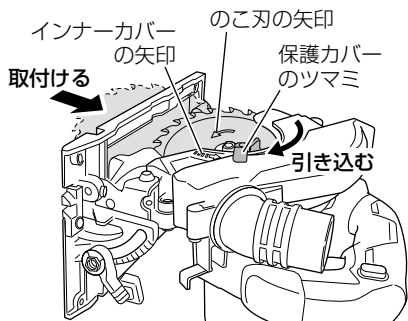
ボルトとワッシャ (B) をはずす

- ワッシャ (B) を押さえながら、手でボルトを反時計方向に回します。かたくてボルトがはずれないときは、P.31「のこ刃の交換」の ㊷ ㊸ を参照してください。
- ボルトとワッシャ (B) をはずし、ワッシャ (A) は付けたままにします。



3 のこ刃を取付ける

保護カバーのツマミを持って、保護カバーをインナーカバーの中に引き込み、のこ刃の矢印がインナーカバーの矢印方向と一致するように、のこ刃を取付けます。



5 のこ刃の取付けを確認する

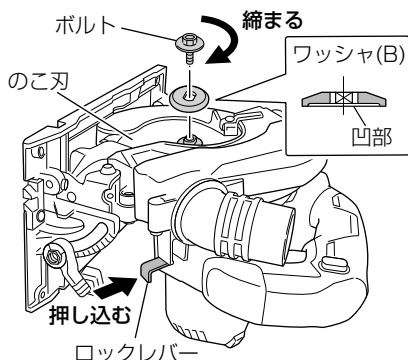
ロックレバーを押さない状態で、ボックススパナでボルトを締まる方向に回すと、のこ刃が回転します。ガタつきやブレがなく、円滑に回転することを確認してください。

注 のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。

4 のこ刃を固定する

ワッシャ (B) の凹部をのこ刃側にして取付け、ロックレバーを押し込み、のこ刃軸を固定して、付属のボックススパナでボルトを時計方向にしっかりと締付けます。

(P.15「ご使用前の点検」の②参照)



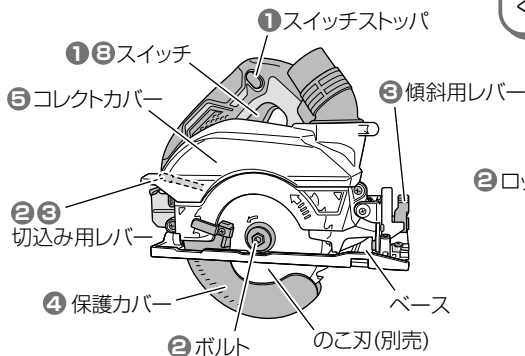
ご使用前の点検

⚠ 警告

①スイッチストップや②ロックレバーが元の位置に戻らない場合、④保護カバーが円滑に動かない場合、⑤ブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

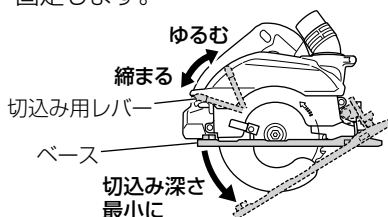
1 スイッチが切れていることを確かめる

- 本製品は、スイッチが入っている状態で電源プラグをコンセントにさし込んでも起動しない構造となっておりますが、万一の事故防止のためスイッチが切れていることを確認してください。
- スイッチを引き、スイッチストップがはずれていることを確認してください。
(P.19「スイッチの操作について」参照)

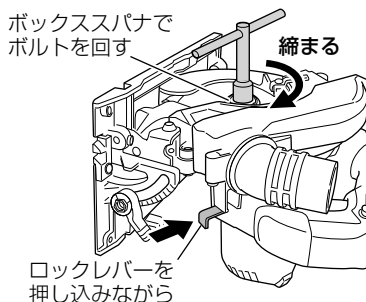


2 のこ刃の締付けを確かめる

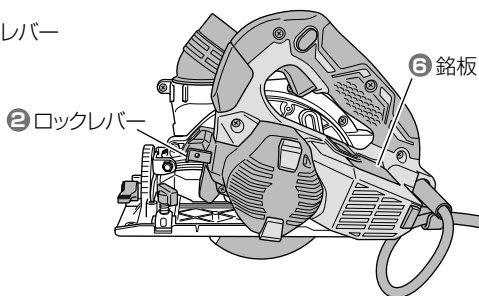
- ① 切込み用レバーをゆるめ、ベースを動かし、切込み深さを最小にします。切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



- ② ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナで、ボルトを時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。その状態のまま締付けます。



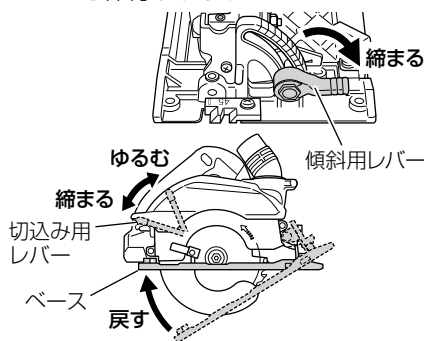
のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。



3

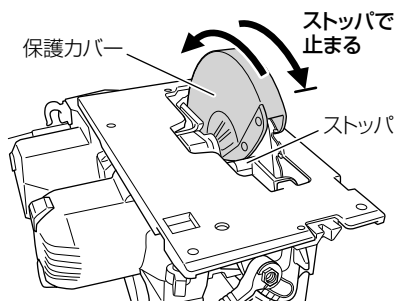
切込み用レバー、傾斜用レバーの締付けを確かめる

②の手順でベースを戻し、切込み用レバーを締付けます。

**4**

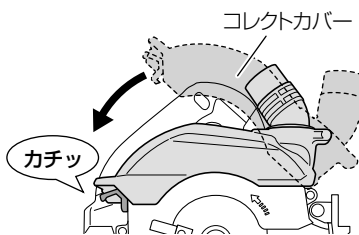
保護カバーの動きを確かめる

- 保護カバーは、のこ刃が体に触れることを防ぎます。のこ刃をおおうように、円滑に動くことを確認してください。
- 保護カバーを動かして戻したとき、保護カバーとストッパにすき間がなく、止まることを確認してください。

**5**

コレクトカバーの取付けを確認する

付着した切粉を十分に取り除き、確実に装着してください。

**6**

電源を確かめる

- 必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。
- 直流電源、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

7

コンセントを確かめる

電源プラグをコンセントにさし込んだ際に、ガタつきがあるときは修理が必要です。

そのまま使用すると危険です。電気工事店にご相談ください。

8

ブレーキがかかることを確かめる

本製品はスイッチを切ると同時に、のこ刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。

使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。



各種調整方法について

● 平行度の微調整

ベース側面とこの刃の平行度を平行度調整ねじで微調整できます。

平行度が狂った場合は次のように調整してください。

1 ギヤカバーヒンジ部の固定ねじをお手持ちの六角棒スパナ (2.5 mm) でゆるめめます。

2 保護カバーのツマミを動かして、保護カバーをインナーカバーの中に引き込み、この刃のベース後方に木片を当て、ベース側面位置に目印を付けます。

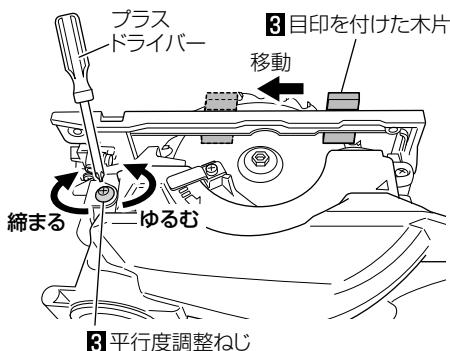
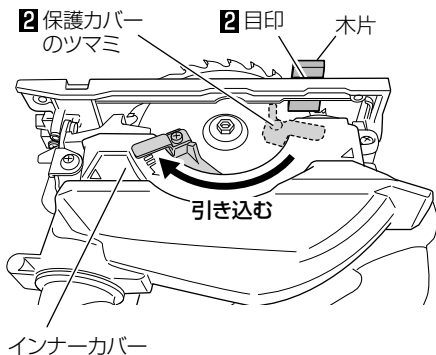
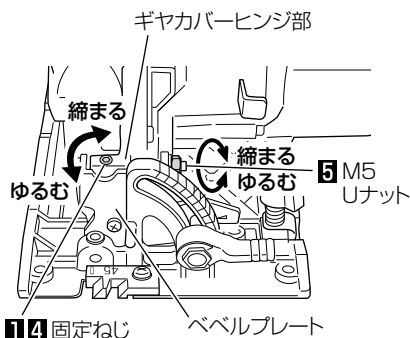
3 目印を付けた木片をベース前方側に移動し、平行度調整ねじをお手持ちのプラスドライバーで回して目印がベース側面に合うようにします。

4 調整後、固定ねじをしっかりと締付けます。

5 平行度調整後、ギヤカバーヒンジ部にガタがある場合は、M5U ナットを締付けてください。締付けすぎると、ベベルプレートが変形してしまうので注意してください。

注 切込み深さを調整後、平行度の調整を行ってください。

(P.27「直角に切断する」①参照)
平行度調整後、切込み深さの調整を行うと、平行度が若干狂う場合があります。



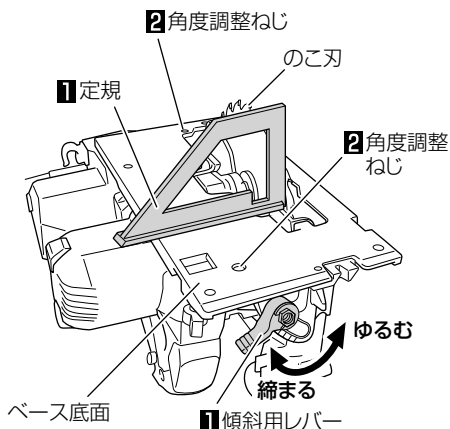
●直角度の微調整

直角度（ベースとのかみ刃の角度）を微調整できます。

角度が狂った場合は次のように調整してください。

1 傾斜用レバーをゆるめ、ベース底面と、のかみ刃に定規を当てて直角を出し、傾斜用レバーを軽く締めます。

2 角度調整ねじの先端がベースの金属製部品に当たるまで、お手持ちの六角棒スパナ（2.5 mm）で角度調整ねじを回し、傾斜用レバーをしっかりと締め付けます。

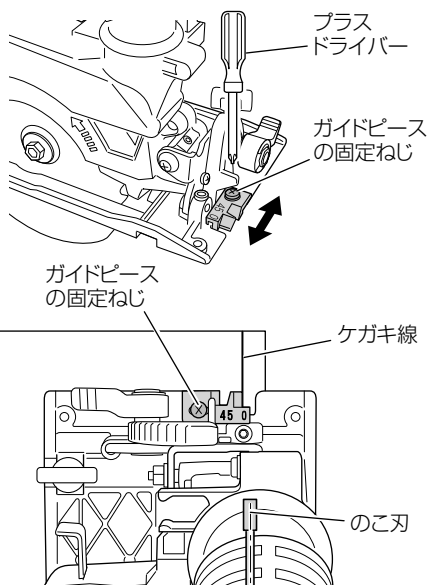


●ガイドピースの微調整

ガイドピースの取付け位置を微調整できます。

出荷の際には、ガイドピース切欠部の直線部分をのかみ刃の刃部側面に合わせてあります。取付け位置が狂った場合は、ガイドピースの固定ねじをゆるめ、位置を調整してください。

お手持ちのプラスドライバーで固定ねじをゆるめ、ガイドピースを左右に動かし位置を調整してください。



基本機能について

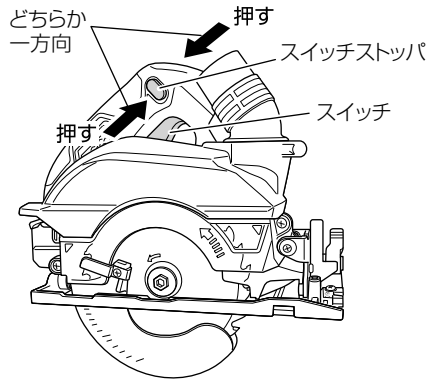
●スイッチの操作について

スイッチを一杯に引きながらスイッチストoppaを矢印側に押すと、連続運転になります。

スイッチが入った後は、スイッチをはなしても、のこ刃は回転を続けます。

再度スイッチを引いて戻すと、のこ刃の回転にブレーキがかかり停止します。

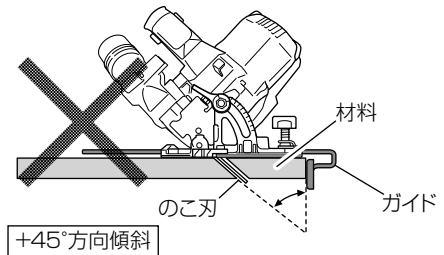
注 本製品は、スイッチが入っている状態で、電源プラグをコンセントにさし込んでも起動しない構造となっています。このときは、スイッチを引く→はなす→引くことで起動します。



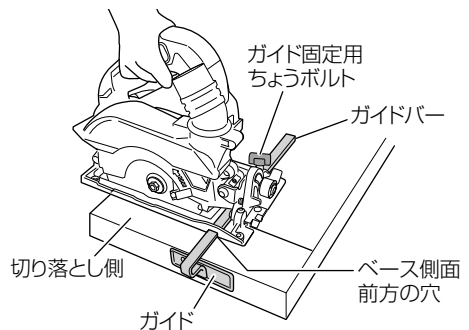
●ガイドの使い方

⚠ 警告

ガイドを使用する際、のこ刃とガイドの間に切り落とした材料が挟まるような傾斜切断はしないでください。思わぬけがの原因になります。



- ① ガイドバーを、ベース側面（切り落とし側）前方の穴に通します。
- ② ガイドを左右に動かして切断位置を調整し、ガイド固定用ちょうボルトを締付け、ガイドバーをしっかりと固定します。



●モード切替機能について

モード切替スイッチを押すごとに、作業モードが替わります。

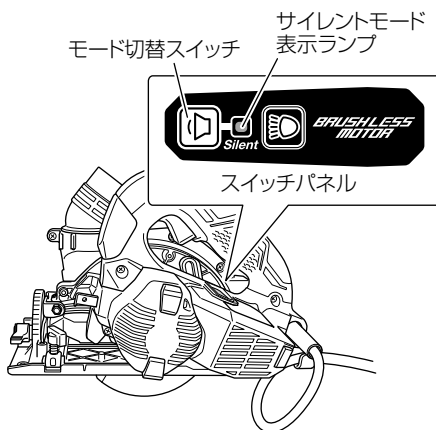
サイレントモード時は、表示ランプが点灯します。

サイレントモードでは、モーターの最高回転数を低くすることで、騒音を抑え効率の良い作業ができます。

サイレントモードで作業していても、負荷が大きくなるとパワーモードに自動的に替わります。負荷が小さくなるとサイレントモードに自動的に戻ります。

パワーモードでは、負荷が変化してもモードは自動的に替わりません。

モード	無負荷回転数
パワー	7,000 min ⁻¹ { 回 / 分 }
サイレント	3,500 min ⁻¹ { 回 / 分 }



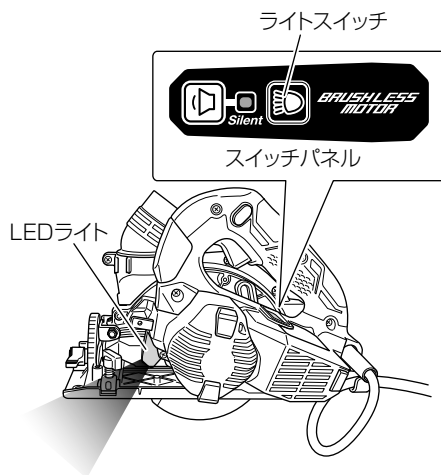
注 スイッチの入/切、電源プラグの抜き/さしをしても、設定したモードは維持されます。

●LEDライトの使い方

スイッチパネルのライトスイッチを押すとLEDライトが点灯します。

LEDライトが点灯した状態で電源プラグをコンセントから抜くと消灯しますが、再度電源プラグをコンセントにさし込むと、同時にLEDライトが点灯します。

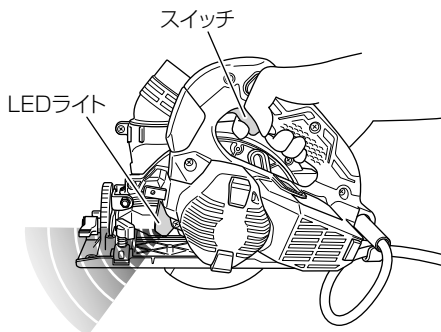
注 LEDライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、LEDライトのレンズ部に傷が付かないように注意してください。
LEDライトのレンズ部に傷が付くと、明るさが低下する原因になります。





●LED ライトの警告シグナルについて

本製品は、機体を保護する機能が付いており、作業中に各保護機能が作動すると、スイッチを引いている間とスイッチをはなしてから約 3 秒間、LED ライトが以下のように点滅してお知らせします。

各保護機能が作動したときは、直ちにスイッチから指をはなし、対処方法に従ってください。



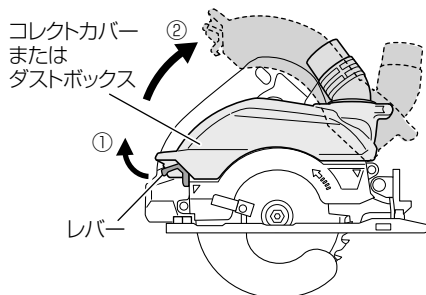
保護機能	LED ライトの表示	対処方法
過負荷保護	0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯  (早い点滅)	大きな負荷となった原因を取り除いてください。
温度保護	0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯  (遅い点滅)	機体を十分に冷ましてください。

コレクトカバー、ダストボックスの使い方

注 ダストボックス（別売部品）の取りはずし・取付けは、コレクトカバーと同様です。

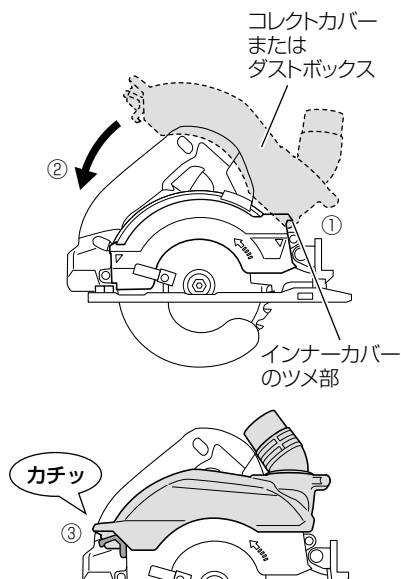
取りはずし

- 1 レバーを上を引き上げます。
- 2 コレクトカバー、またはダストボックスをはずします。



取付け

- 1 インナーカバーのツメ部にコレクトカバー、またはダストボックスを引っ掛けます。
- 2 コレクトカバー、またはダストボックスを押し下げます。
- 3 レバーの先端を、インナーカバーに引っ掛けて固定します。



集じん機（別売部品）との接続

- コレクトカバーのダクトノズルは回転しますので、作業しやすい位置に調整してください。
 - ダストボックスは、ダストカバーの後方に付いているゴムキャップをはずします。

- 集じん機に付属されているホースを、ホース取付口に接続します。RP 80YB などの集じん機に接続する場合は、集じん機に付属のゴムアダプタが必要になります。

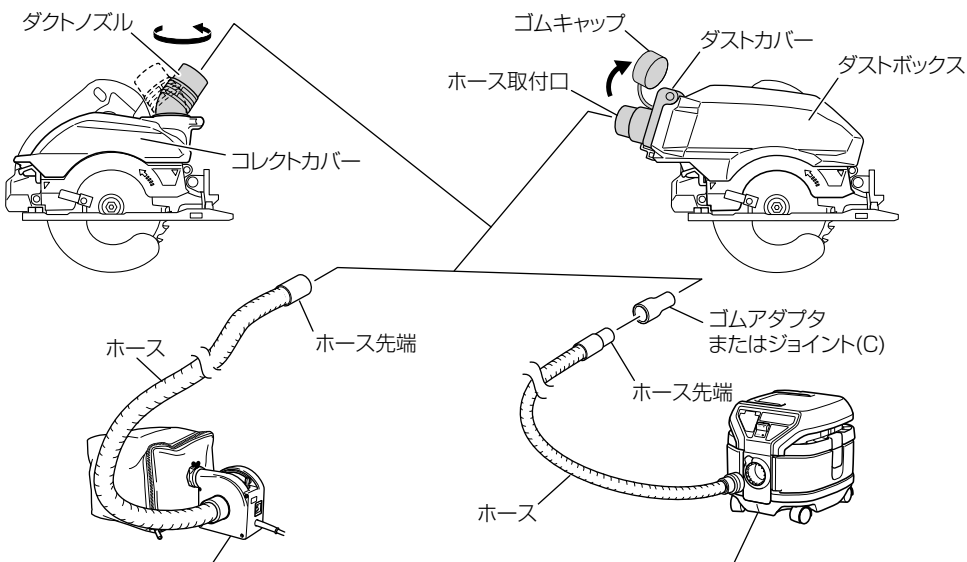
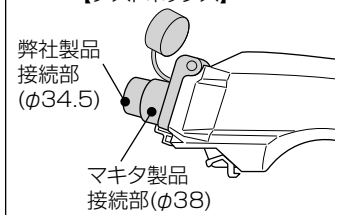
警告

集じん機の使用法、集じんできる切りくすなどについては、集じん機の取扱説明書を良くお読みください。

【コレクトカバー】



【ダストボックス】



集じん機(RP 80YD、R 30Y3などの集じん機)

集じん機(RP 80YBなどの集じん機)

キックバックについて

キックバックとは

回転中ののこ刃に、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは機体が作業者側にはじき飛ばされる現象です。

キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるのこ刃の挟み込み
- ② 曲線切りなど、機体をこじる作業
- ③ 材料にのこ刃の刃先を当てた状態での起動

ほかにも、劣化したのこ刃の使用やかたい未乾燥材の切断、過度に深い切込み設定、過大な押し付けなど、複合的な原因があります。

キックバックを避けるには

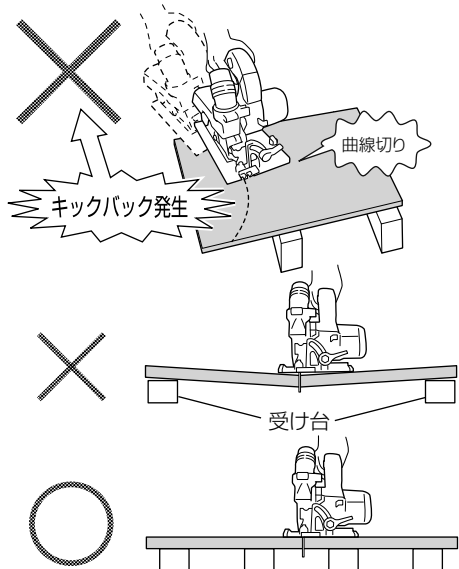
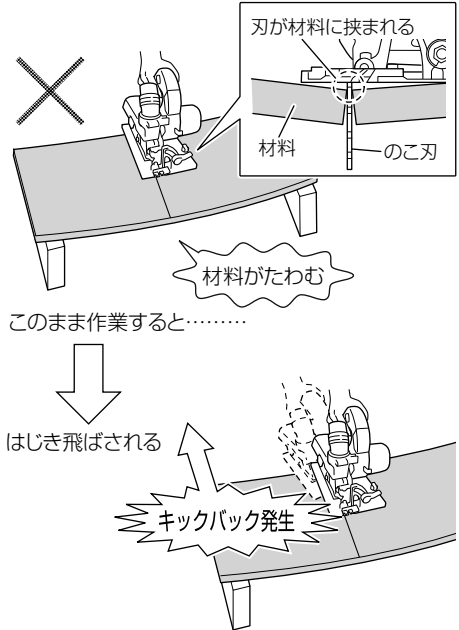
材料によるのこ刃の挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、のこ刃の挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近い所に受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、のこ刃を挟み込みます。

切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



キックバック軽減システムについて

本製品は、モーターの回転数の変化を監視し、のこ刃の挟み込み等により、モーターの回転速度が急速に低下したとき、瞬時にモーターを停止することで、キックバックの動きを軽減する「キックバック軽減システム」が搭載されています。

キックバック軽減システムが作動したら…

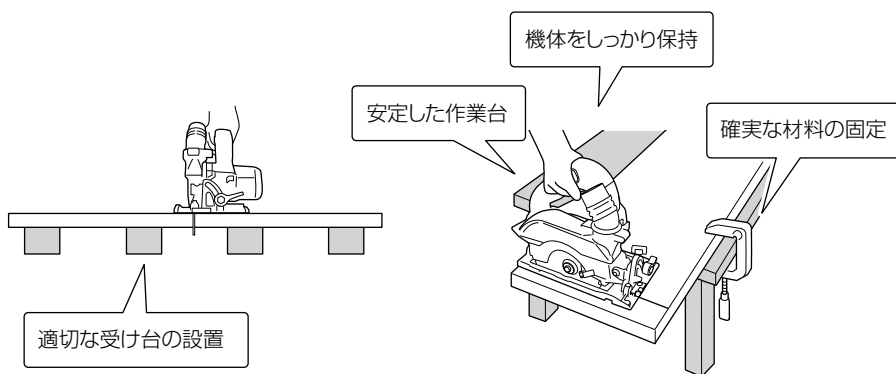
キックバック軽減システムが作動してモーターが停止したときは、

- ① 直ちに機体のスイッチを切る
- ② のこ刃にかかった負荷の原因を確認する
- ③ 過負荷となった原因を取り除く
- ④ 再度スイッチを入れる
- ⑤ 切断を再開する

注意していただきたいこと

「キックバック軽減システム」は、作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合があります。

作業時は、確実な材料の設置・固定および機体の保持を行ってください。



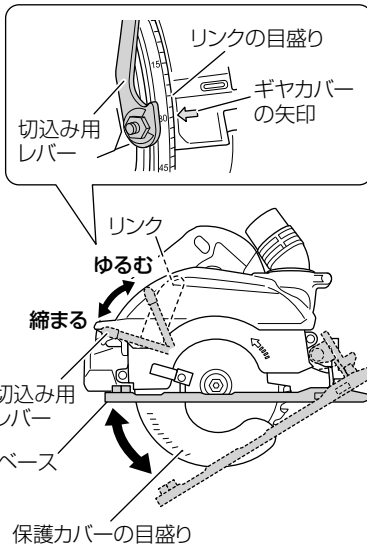
直角に切断する

1

切断する材料の厚みに 応じて切込み深さを 調整する



- 切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。
- リンクおよび保護カバーには、のこ刃外径 125 mm 用の目盛りが付いています。目盛り線は 3 mm (1 分) 刻みです。
- ギヤカバーの矢印に目盛りを合わせてください。
- ベースとのこ刃が直角のときは、この目盛りを目安に切込み深さが調整できます。

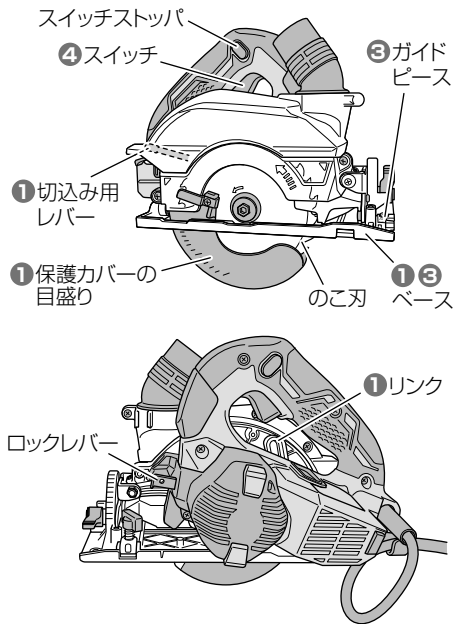
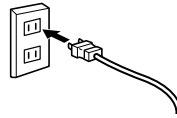


警告

切込み深さの調整後、ベースがしっかり固定されていることを確認してください。

2

電源プラグをコンセントに さし込む



注 正確に調整するときは、のこ刃の切込み深さを測定してください。

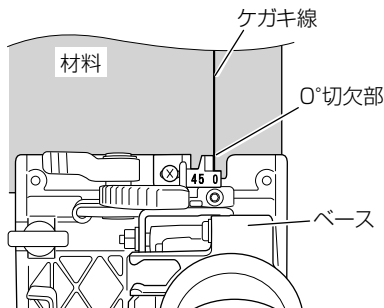
⚠ 警告

- スイッチストッパを固定しないでください。また、運搬時にはスイッチから指をはなしてください。不意にモーターが起動し、思わぬ事故をおこすことがあります。
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。機体をまっすぐにゆっくり進めるようにしてください。反発力を受け、けがの原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

- 注**
- 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。
 - ロックレバー (P.8 の図参照) は、のこ刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
 - 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
 - のこ刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。

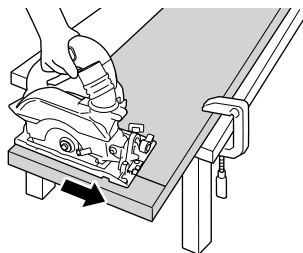
3 ケガキ線に合わせる

材料の上に機体 (ベース) を載せ、ケガキ線にガイドピースの 0° 切欠部を目安に合わせます。



4 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



傾斜切断する

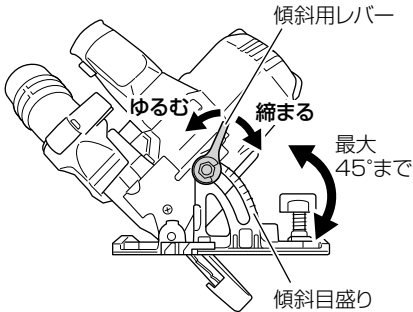
警告

調整後、傾斜用レバー、および切込み用レバーをしっかりと締付けてください。

1

傾斜角度を調整する

- 傾斜用レバーをゆるめ、傾斜角度を調整します。
のこ刃をベースに対して、最大 45° まで傾けることができます。



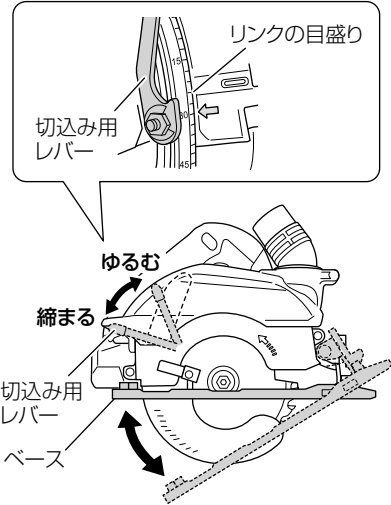
- 傾斜用レバー締付け部に、5° 刻みの傾斜目盛りが付いています。正確な角度で切断したい場合はベースとのこ刃の角度を定規で測定してください。

2

切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整する

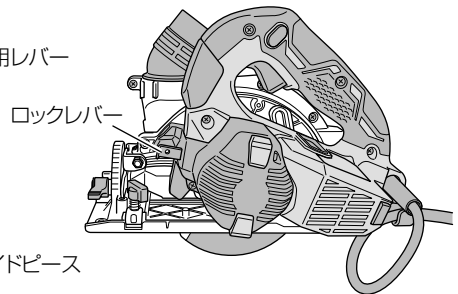
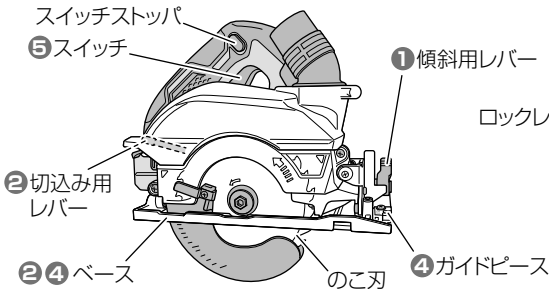


切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



注 リンクおよび保護カバーに付いている目盛り線は、傾斜切断のときは使用できません。

切込み深さを調整するときは、のこ刃の切込み深さを測定してください。

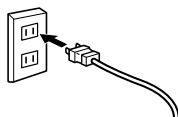


警告

- スイッチストップを固定しないでください。また、運搬時にはスイッチから指をはなしてください。不意にモーターが起動し、思わぬ事故をおこすことがあります。
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。機体をまっすぐにゆっくり進めるようにしてください。反発力を受け、けがの原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

3

電源プラグをコンセントにさし込む

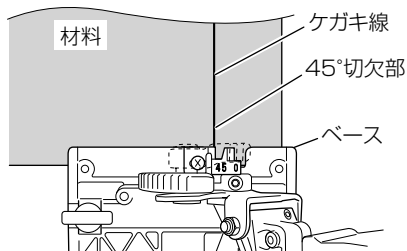


4

ケガキ線に合わせる

45° 傾斜するときは、材料の上に機体(ベース)を載せ、ケガキ線にガイドピースの45°切欠部を目安に合わせます。

(45°傾斜のとき)



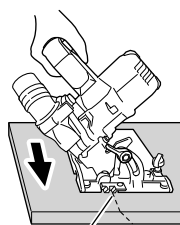
注

- 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。
- ロックレバー(P.8の図参照)は、のこ刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
- 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
- のこ刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。

5

スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。切断位置(45°の場合)



- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。

🚫 のこ刃の交換

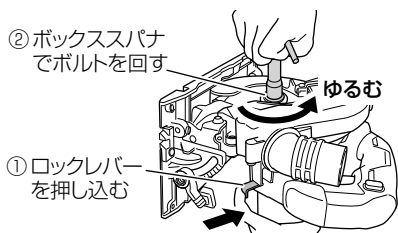
⚠️ 警告

- のこ刃の交換は、安定した台や床の上で行ってください。
- ボルトの着脱は、付属のボックススパナで作業してください。
付属以外の工具を使用すると、締めすぎや締め付け不足になります。

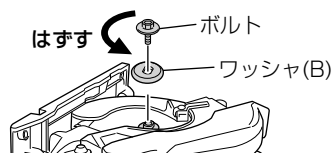
1 切込み用レバーをゆるめ、
切込み深さを最小にする
(P.13「のこ刃の取付け」の①参照)

2 のこ刃軸を固定する

ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナで、ボルトを反時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。
この状態でのこ刃軸が固定されます。

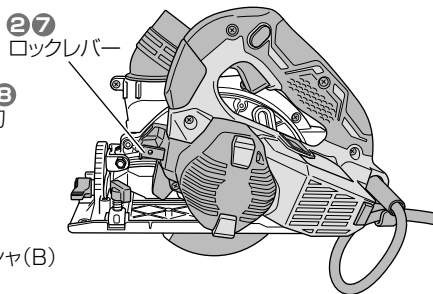
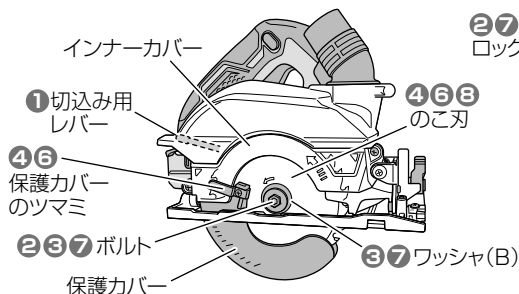
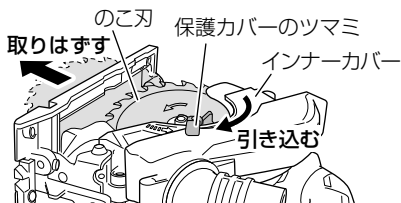


3 ボックススパナを反時計方向に
回し、ボルトとワッシャ(B)を
はずす



4 のこ刃を取りはずす

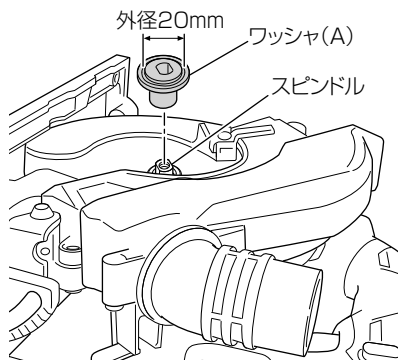
保護カバーのつまミを持って、保護カバーをインナーカバーの中に引き込み、のこ刃を取りはずします。



注 この刃の取付け前にインナーカバー内側やスピンドル、ワッシャ(A)、ワッシャ(B)に付いている切りくずを良くふき取ってください。

5 ワッシャ(A)の穴形状をスピンドルの形状に合わせてさし込む

ワッシャ(A)は、穴径20mmのこの刃だけが取付けできるようになっています。

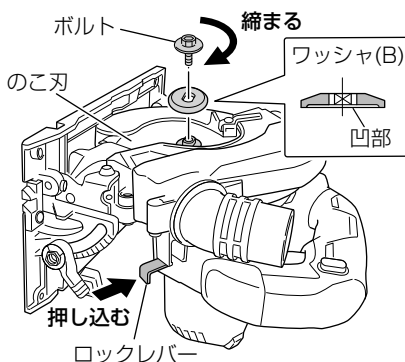


注 ワッシャ(A)、ワッシャ(B)は、機体に取付けてある物を使用してください。

7 この刃を固定する

ワッシャ(B)の凹部をこの刃側にして取付け、ロックレバーを押し込みこの刃軸を固定して、付属のボックススパナで、ボルトを時計方向にしっかりと締付けます。

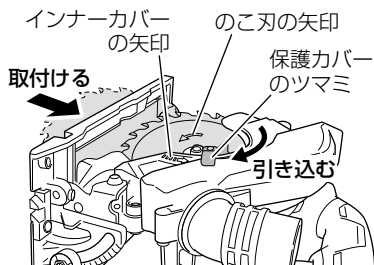
(P.15「ご使用前の点検」の②参照)



注 切断トイシは使用できません。

6 この刃を取付ける

保護カバーのツマミを持って、保護カバーをインナーカバーの中に引き込み、この刃の矢印がインナーカバーの矢印方向と一致するようにこの刃を取付けます。



8 この刃の取付けを確認する

ロックレバーを押さない状態で、ボックススパナでボルトを締まる方向に回すと、この刃が回転します。ガタつきやブレがなく、円滑に回転することを確認してください。

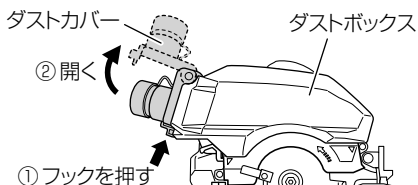
注 この刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。



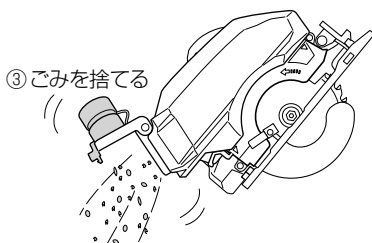
切りくずの捨て方 (ダストボックス使用時)

- 注** •ダストボックス内の切りくずが満杯のまま使用すると、集じん効率が低下しますので、切りくずが満杯になる前に捨ててください。
- 切りくずを捨てる時に、機体のモーター部に切りくずが入らないようにしてください。

1 ダストカバーの下方にあるフックを押し、ダストカバーを開き、ダストボックス内の切りくずを捨てます。

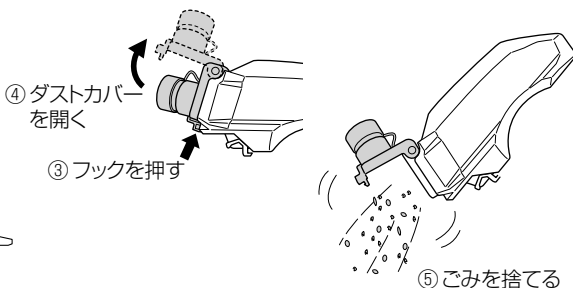
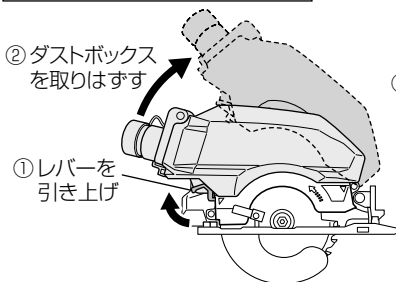


2 ダストカバーを閉じて、フックを掛けてください。

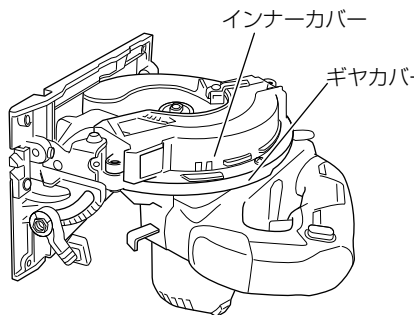
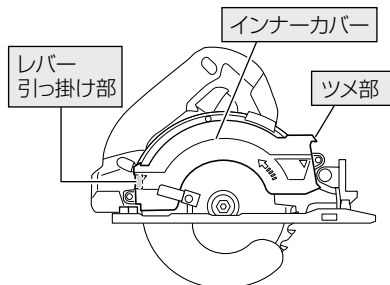


注 インナーカバーの内側に切粉等がたまった場合は、P.34「インナーカバー内側部の掃除」を参照してください。

ダストボックスを取りはずす場合



切粉等が付着すると、取付け不具合の原因になります。
下記の箇所に、切粉等がたまらないよう定期的に点検・掃除してください。

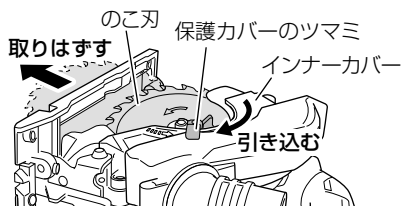




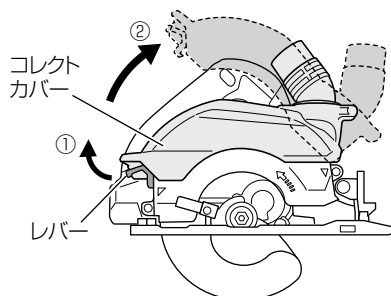
インナーカバー内側部の掃除

切粉等がたまらないように定期的に点検・掃除してください。

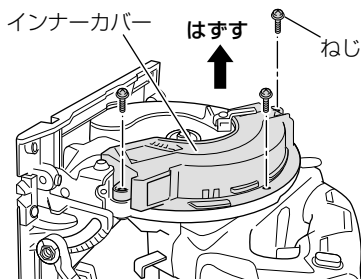
- 1 P.31「のこ刃の交換」の手順に従い、のこ刃を取りはずします。



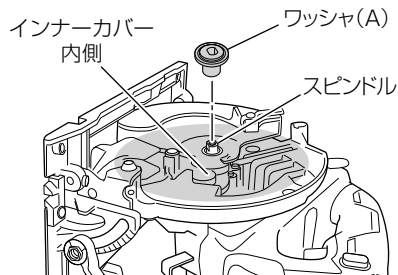
- 2 コレクトカバー、またはダストボックスを取りはずします。



- 3 お手持ちのプラスドライバーで、ねじ3個をゆるめ、インナーカバーを取りはずします。

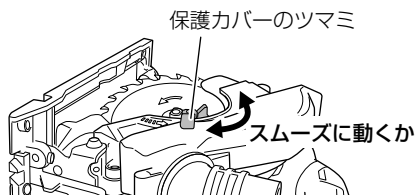


- 4 インナーカバー内側やスピンドル、ワッシャ等に付いている切りくずを取り除いてください。



- 5 ワッシャやのこ刃の向きに注意して、逆の手順で組み立ててください。

- 6 保護カバーの作動確認をしてください。

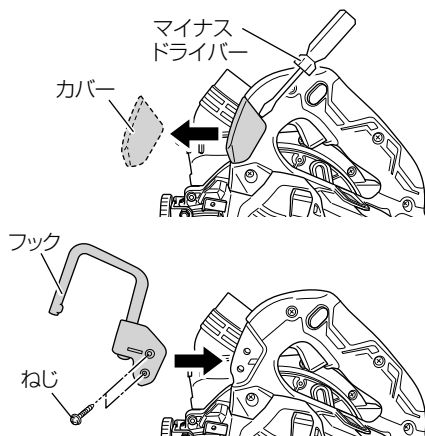


別売部品の取付け方

● フック

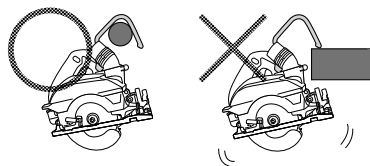
マイナスドライバーをすき間にさし込んで、ハンドルからカバーをはずします。

ハンドルにねじでしっかり固定します。



注意

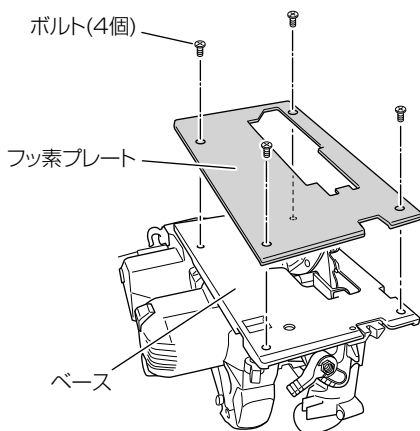
- このフックは人体へのつり下げ用ではありません。ベルトやズボンなど人体へのつり下げはけがの原因になるので、絶対にしないでください。
- 高所ではフックを使用しないでください。
- つり下げた状態で引いたりしないでください。
- フックは確実に掛けてください。



● フッ素プレート

ベースにボルトでしっかり固定します。

- 注**
- 最大切込み深さが 2.5 mm 浅くなります。
 - 木材以外を切断すると、フッ素コートがはがれ、ベースの滑りが悪くなります。
 - フッ素コーティングされたベース面は、滑りが良いためモーター部に無理がかかりやすくなっています。機体を強く押しすぎないでください。



⚠ 警告

エアガンなどを用いて風穴や保護カバーなどに空気を吹き込む際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。

排出された切粉等を吸い込んだり、目に入る可能性があります。

● 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。

ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。

異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

● のこ刃の点検

切れ味が悪いのこ刃を使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。

⚠ 警告

切れ味の悪くなったのこ刃は使用しないでください。

無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

● モーターの回転伝達部について

- 本製品は、切断時の振動低減のため回転伝達部にゴムダンパを使用しております。
- 50 時間程度使用して、振動が大きくなってきたと感じられたらゴムダンパの摩耗・変形が考えられますので、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。ゴムダンパが摩耗・変形したまま使用し続けると、故障の原因になります。

● モーターの取扱いについて

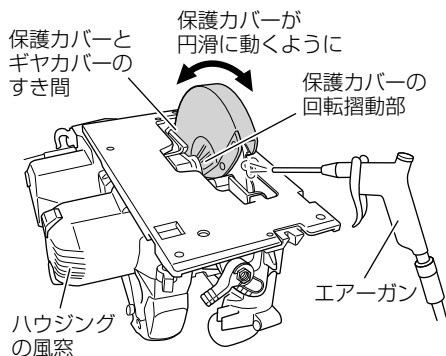
モーター（内蔵）（P.8「各部の名称」参照）に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

注 50 時間くらい使用しましたら、エアガンなどを用いて湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。

モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

● 保護カバーの点検と保守

- 保護カバーは、いつも円滑に動くようにしてください。
なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。
- お手入れ・掃除の際には、エアーガンなどを用いて湿気のない空気を保護カバーの回転摺動部や保護カバーとギヤカバーのすき間へ吹き込んでください。
切粉等の排出に効果があります。
保護カバーの周りに切粉等がたまると、作動の不具合や故障の原因になります。



● 清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布を良く絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

● 機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- 注**
- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
 - 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

故障診断

「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

状 況	原 因	対 策
動かない	電源プラグが抜けている	電源プラグを確実にコンセントにさし込んでください。
	機体が過熱状態になっている	機体を十分冷ましてください。
突然止まった	過負荷になった	大きな負荷を与えた原因を解消してください。
	キックバック軽減システムが作動	
	機体が過熱状態になった	機体を冷ましてください。
傾斜できない	傾斜用レバーがゆるんでいない	傾斜用レバーをゆるめてから傾斜させてください。
平行度微調整できない	ギヤカバーヒンジ部の固定ねじがゆるんでいない	ギヤカバーヒンジ部の固定ねじをゆるめてください。
切れ味が悪い	のこ刃が磨耗・欠けている	新品と交換してください。
	ボルトがゆるんでいる	しっかりと締めてください。
	のこ刃が逆に付いている	のこ刃を正しい方向に取付けてください。
スイッチがロックできない	スイッチストップの押し込みが足りない	スイッチストップを突き当たるまで押し込んでください。
切粉の集じんが悪い	機体または集じん機に切粉が詰まっている	機体または集じん機の切粉を取り除いてください。
ダストボックス、またはコレクトカバーが取付かない	ダストボックス、またはコレクトカバーとギヤカバー、インナーカバーの間に切粉がたまっている	ダストボックス、またはコレクトカバーをはずした状態で、切粉を取り除いてください。
切断時の振動が大きくなってきた	モーターの回転伝達部のゴムダンパが摩耗・変形した	お買い上げの販売店に交換を依頼してください。

ご修理のときは


修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を
依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00～12:00, 13:00～17:00	
●フリーダイヤル  0120-20-8822	※携帯電話からはご利用になれません。 携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。 ※長くお待たせする場合があります。 お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>